

県政だより

平成30年 新春号

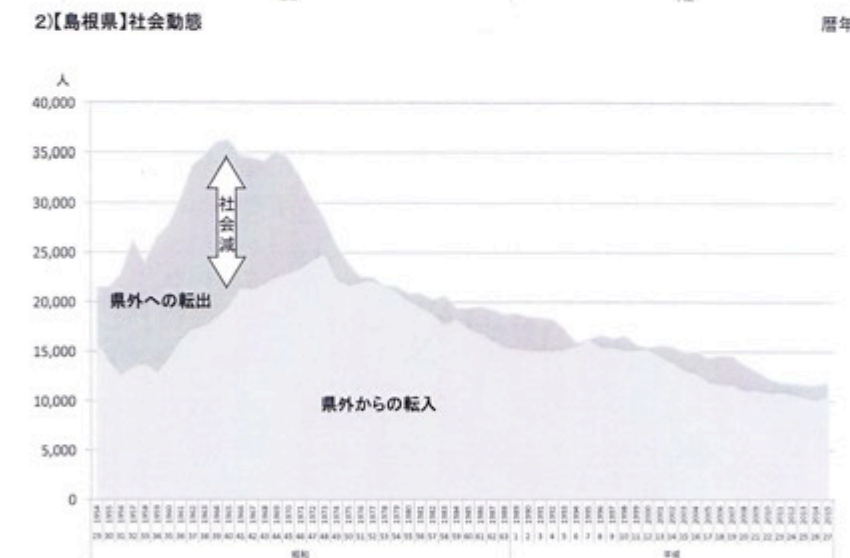
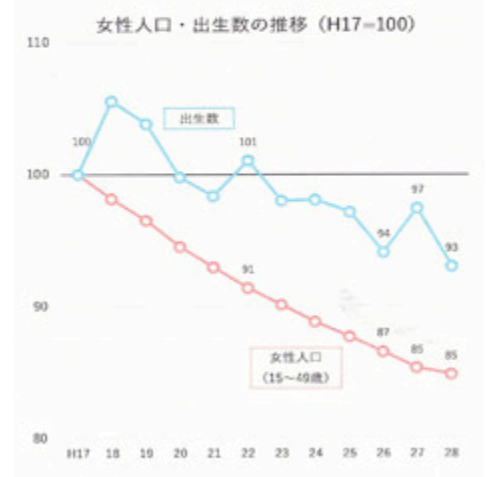
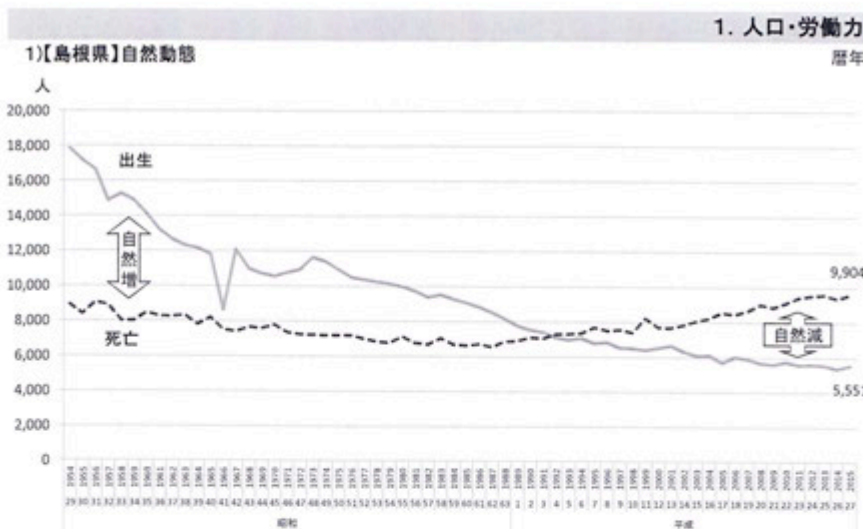
2018年1月発行
 <発行> 池田はじめ事務所
 〒699-0612 出雲市斐川町出西 2833
 TEL 0853-73-7720
 FAX 0853-73-7721

<あけましておめでとうございます>

昨年の衆議院議員選挙、新しい政党が乱立し、テレビをはじめマスコミ報道が過熱していましたが、私は今回の選挙、政党間よりも「地方と都市部の対立」が隠れた争点ではなかったかと思えます。率直に言って、与野党とも地方の事は全く話題にもしていませんでした。衆議院議員、東京都だけでも42人。都市部の3大都市圏の国会議員は全議員の半数以上を占めています。数ではとてもかかないませんし、彼らは地方の事など全く関心もなく、考えもしていません。その上国の施策は、どうしても全国画一的なものにしかありません。施策そのものや施策の内容が、都市部の考えや都市部に係る問題に寄ってしまいます。このままでは地方は置いていかれる一方です。

我々地方は、地方の厳しさを訴える事が出来得る優秀な議員に、しかるべき立場に立って、声を大にして地方の窮状を訴えてもらうしかありません。

「数」より「質」。島根県選出の国会議員の皆さんには、島根のような地方の現状を認識した働き・訴えを、是非とも期待したいです。 島根県議会議員 池田



<島根県の人口動態>

島根県の人口、その内容を経年変化で見ると、左の図のようになります。1950年代後半～70年代前半の高度経済成長期、社会減は止まりませんでした。それ以降社会増減はほぼ均衡し、縮小傾向にあります。そして1990年代から自然減が増え始め、その勢いは止まりません。出生率は最低だった2005年より0.25ポイント増え、1.75まで回復しましたが、上の図の通り、適齢期の女性人口が減り続け、出生数は現在5500人前後に低迷しています。自然減は4000人を超え、一昨年には明治末期以来、70万人を切ったのです。

資料出所:「住民基本台帳人口移動報告年報」～総務省統計局

総務委員長として

1 総務委員会・6つの重要な部署を管轄

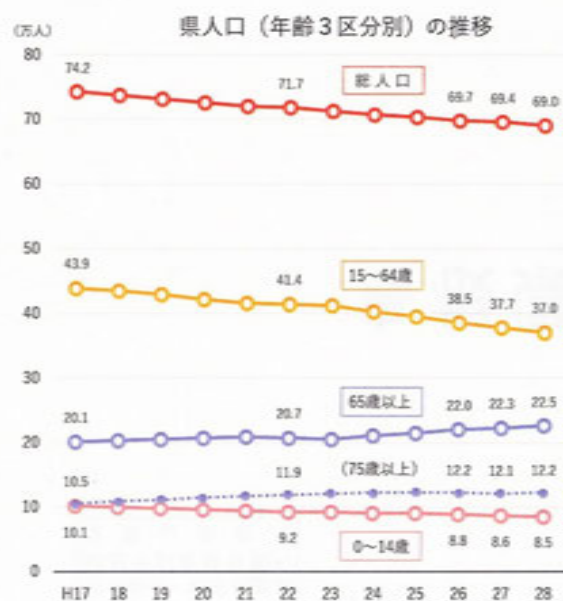
池田はじめは、4つある常任委員会のうち、今まで「農水商工委員会」「文教厚生委員会」の2委員会に於いて委員長を務めてきましたが、昨年より「総務委員会」の委員長に抜擢され、6つの重要な部署を管轄することになりました。今後もしっかり島根県のために尽力します。

- ・総務部・・・県の財務、人事、資産管理など
- ・政策企画局・・・県施策の立案、取りまとめ、評価など
- ・広報部・・・県施策の広聴広報、県の良さを県外にアピール
- ・防災部・・・県の安全・危機管理、消防、災害対策対応など
- ・地域振興部・・・地方創生、中山間・離島地域対応など
- ・警察本部・・・県民生活の安心・安全

2 地方創生・カギは生産活動の中核層の獲得

70万人を切ってしまった島根県。右表のように15～64歳までの生産活動に従事する中核となる年齢層の減少が著しく、特に離島や中山間地域、県西部におけるそれらの年齢層の人口流出に、歯止めがかかりません。

島根県では過疎地域に「生活・医療・教育・防災」の4つを柱とした「小さな拠点づくり」を進めています。市町村と協力し、就職可能な企業の少ない離島・中山間地域に於いても、それぞれの地域に特徴を持たせ、若い人でも志を持って仕事ができ、生活を営める環境・土台づくりしようとしています。「ただ魚を与えるのではなく、魚の取り方を教える」補助金に頼るだけでなく、自立しようとする意識を持たせ、それをサポート体制が必要となってきます。単なる支援「公助」を抑え、「自助・共助」中心とした成果連動型政策の推進に努めていきます。



3 これからの県政を進めるにあたって

国境離島と中山間地域を抱えた広い面積を持つ島根県。一般会計予算は5000億円余りで、広島市の予算にも届きません。溝口知事就任以降10年に及ぶ財政健全化では、全ての部署の予算を一律削っていくというマイナスシーリングを行っていましたが、それも限界です。また、後世に負の遺産を残さないようにと県債返還を早めてきましたが、急激な返還が県民の負担となって、挙句に県が沈んでしまったら、何の意味もありません。特に時代が大きく変化している昨今、必要とされる事業への支援は多岐にわたり、増える一方です。来年度以降、各部署に於いて事業のスクラップ&ビルドを推進するのは勿論ですが、県債の返還を緩やかにする事によって、必要な事業を進めていけるようになればと思います。予算を預かる部署を管轄する委員会の委員長として、県民の皆様が将来に夢と希望が持てる島根県にしていく事が、私の使命です。



編集後記

総務委員長になって、県政に於ける活動の重さを実感しています。その中で感じるのが、県民に対する県政への訴えや理解を求める事の重要性です。地域によって問題は複雑・多岐にわたっています。「県はこうします、ですから皆さんもこのようにしてください」という姿勢を真摯に示し、理解を得る事が、県政のスムーズな運営に繋がると思います。そのような活動を進め、皆さんに県の姿勢を訴え続けたいと思います。